

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	アートキッズ療育		
○保護者評価実施期間	令和6年8月30日		～ 令和6年9月14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数) 10
○従業者評価実施期間	令和6年8月30日		～ 令和6年9月19日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年9月26日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもにわかりやすく構造化された環境になっています。 ●「一度も「行きたくない」など言わず毎回楽しんで通っている」というご意見をいただいています。 ●「子どもの特性を尊重して接していただき満足しています。」というご意見をいただいています。 	<ul style="list-style-type: none"> ●お子さんに合わせて机と椅子の位置を工夫していたり、教材の位置を固定する、状況に応じ必要な物のみ出す等しています。 ●基本的に個別療育で、同じ枠のお子さん達の活動場所を分け、交替する等しています。 ●お子さんの状況について、ご見学・ご体験時に状況を伺うだけではなく、療育前に検温と共に「変わりがないか。」を常に確認しています。 ●食事やおやつを提供を止めたため、今、食物アレルギーで個別に気をつけることはないですが、事業所内の飲食やゴミについて、アレルギー事故防止のために保護者にご協力いただいています。 	<ul style="list-style-type: none"> ●職員間での話し合いで、皆が意見を言えるように工夫していく。 ●保護者様のご意見について、定期的なアンケートなどを検討する。
2	<ul style="list-style-type: none"> ●様々なスタッフができる限り交替で個別療育を担当することで、固定化しないようにしています。 ●個別で1対1の療育は保証しています。 ●療育プランは個々のお子さんごとに立てていて、必ず支援目標を書いています。気になることがあれば、都度話し合いをしています。 ●「気になることは都度ご相談できるので、特別なプログラムの必要性は感じていません。」というご意見を頂いています。 	<ul style="list-style-type: none"> ●「気になることは都度ご相談できるので、特別なプログラムの必要性は感じていません。」というご意見を頂いています。 ●支援プログラムはお子様個別に作成しています。基本的には認知・言語・微細運動・粗大運動を満遍なくプログラムに入れるようにしています。 ●個別療育の担当を基本的に毎回変えているので、活動プログラムを個々に立案しています。わからないことや困ったことは質問したりアドバイスがあります。部屋の使い方やアシスタントに手伝ってもらうことを共有しています。小集団ができるお子さん達の活動プログラムは、その日の担当者が立案しますが、内容を事前に共有しています。 ●様々なスタッフができる限り交替で個別療育を担当することで、固定化しないようにしています。プログラム作成の際、前のプログラムに目を通してしています。 ●お子さんの発達や特性、療育にいらっしゃることができる曜日と時間に合わせて、お子さんの状態と人数がそろえば、小集団をを設定しています。 ●地域の関連機関との連携についてはまだ連携できていない所ありますが、連携するよう努めています。 ●幼稚園・保育園と保護者様のご依頼がある場合、またこちらから提案をし、保育園や幼稚園を訪問できるよう日程調整をしたり準備をしています。 ●重要事項説明書は、東京都のものより詳細に書いてあり、説明しています。支援プログラムについては、その日行った活動を抜粋して「活動の目的とお子さんの様子」を話すようにしています。保護者からのご質問にもお答えしています。 	<ul style="list-style-type: none"> ●就学時の移行について保護者様からのご依頼があったり、必要と思われる場合は、検討する意思はあります。 ●気になることがあると、今も他スタッフの療育を見ているが、お互いの療育を一定時間しっかり、気軽に見れるようにしていく。

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
2		●職員間で支援終了後に話す時間がある時はできる限り話をします。話ができない時は、できる限り近い日程で朝や空き時間に話をする等しています。	
3	●スタッフ間で事業所内で困ったことや課題についてなど気軽に相談することができます。 ●都度気になったことや、保護者・相談支援事業所などからの話等を共有しています。各種委員会や研修時に意見を募っています。 ●管理者が積極的に研修の情報を提供しています。会社が障がい児成長支援協会に入っていて、受講希望者は空き時間等に研修を受けています。	●ご家族からの相談について、活動のフィードバック、個別支援計画のモニタリング時に主に話を伺っています。●ご依頼があれば面談などを随時受付けています。 ●SNSは随時更新しています。また、東京都からのコロナ感染の注意喚起などは、利用者様全体に周知しています。	●フィードバック時にお話をする時間に限りがあるので、オンライン等でお子さんについて相談する時間があると良い。 （既存のお子さんに限らず相談会を設ける等、考えてみる） 普段の話の時に日時を決めて「相談会」の案内をしてみる等すると、ご自分からお伝えしづらい保護者も参加しやすい)

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	●視覚的な掲示物、設置物が多く、刺激や集中の妨げになる可能性を感じています。玄関に段差があり、そこはバリアフリーになっていません。 ●「マニュアルは策定され掲示もされていますが、避難訓練等が実施されているかがわかりません。」というご意見を頂いています。 ●各種媒体の事業所アピールの場の更新まで手が回っていないように感じます。 ●保護者に対して子どもの安全確保と安全計画の取り組み内容について：必要があればお伝えするようにしていますが、周知について、未だ検討中の部分があります。	●療育に集中して丁寧に活動プログラムを考える等支援しています。また、この事業所での職員の勤務期間が短いので、優先順位が高いものからこなしており、スタッフ一人一人に気持ちの余裕がないと思います。	●学習室で机上活動をする際、教材がたくさん見えるので、布をかぶせることを検討しています。 ●保護者会を定期的に開催することで、保護者同士も交流しやすくなると思います。 ●保護者会は、まだ定期的な開催までできていないので、今後検討したいと思います。きょうだい同士の交流は、今は検討していません。 ●ペアレントトレーニング：今後、検討していけると良いです。 ●保護者へ直接の通信の発行は、今後検討していきます。 ●地域との交流は「あるとの事です、私はまだ不安を感じるのでお断りしています。」というご意見を頂いています。また、「普段保育園で地域との関わりがあるので特に不要です。」というご意見を頂いているので、今後どのようにしていくか話し合っていきます。 ●まずは不定期でもいいので、各種訓練や制作等の掲載も含めて会報やブログ等を発行していけると良い。
2	●スタッフの体調不良などの欠席が続くと人員基準に満たなくなることがあります。 ●職員により、プログラムの内容が偏ったり、目標設定にばらつきがあることがあるので、お子様に合わせた職員の個性を発揮しながらも、それぞれが専門性（発達や特性に合わせたスモールステップでの進め方）を高めていけると良いと思います。 ●支援プログラムを作る際に、各職員がお子さんの支援課題や目標、総合的な支援の方針を「都度見る」ことが習慣づくとう良いと思います。 ●パターン化で「できた。」ではなく、理解して「できた。」となるよう、児童発達支援管理者が声をかけていますが、スタッフにより同じ活動が続くことがあります。 ●個別支援計画：お子さんの意向が保護者様の意向になりがちです。	●経験の差や工夫のアイデアがどれ位あるか、またスタッフの個性ある中で、お互いの療育を見ることを遠慮したり、事務作業に追われる等して、スタッフ自身のやりやすい療育プログラムに偏ったり、スタッフによって療育プログラムのバリエーションにばらつきがあると思います。 ●一人のスタッフの活動終了後に活動内容について、気になったことは話をしてはいるが、改めて引継ぎや振り返りの時間を設けることができていないと感じます。 ●元々就労の事業所なので、それを元にしていて、児童発達支援の仕事量を本部側がまだ把握しきれていないことがあるかもしれないと感じています。	●言葉が通じるお子さんは、個別支援計画のモニタリングの頃に、「この事業所でこれから何をしたいか？」と聞いてみるように意識していきます（本来、ご本人の意向に基づいた計画であるべきなので、例えば「〇〇で遊びたい。」（理由もきいてみる）でも良いと考えます。 ●療育についての意見を気軽に伝え合うことができる雰囲気は継続していきたいと思っています。良いことも悪いことも口に出していくように努めます。
3	●人員面の保証があると研修を受けやすくなると思います。		●人員や事業所の環境について、今の環境でどのように工夫できるかを考えていく必要があると思います。 ●声を上げて問題提起だけで終わらず、情報を調べて上司を説得する等、「現場から変えていく」という意思を持っていけるとよい。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		アートキッズ療育				公表日		令和6年11月1日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	0					
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	2	個別で1対1の療育は保証しています。	スタッフの度重なる体調不良等で、人員基準に満たない日がありました。			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4	2	子どもにわかりやすく構造化された環境になっています。お子さんに合わせて机と椅子の位置を工夫していたり、教材の位置を固定する、状況に応じ必要な物のみ出す等しています。	視覚的な掲示物、設置物が多く、刺激や集中の妨げになる可能性を感じています。玄関に段差があり、そこはバリアフリーになっていません。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	0		学習室で机上活動をする際、教材がたくさん見えるので、布をかぶせることを検討しています。			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	0	基本的に個別療育で、同じ枠のお子さん達の活動場所を分け、交替する等しています。				
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6	0	療育プランは個々のお子さんごとに立てて、必ず支援目標を書いています。気になることがあれば、都度話し合いをしています。				
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0					
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0	・事業所内で困ったことや課題についてなど気軽に相談することが出来るので助かります。 ・都度気になったことや保護者・相談支援事業所などからの話等を共有しています。各種委員会や研修時に意見を募っています。				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	4					
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	0	・タイミングを計って、研修を受けさせて頂いています。 ・管理者が積極的に研修の情報を提供しています。会社が障がい児成長支援協会に入っていて、受講希望者は空き時間等に研修を受けています。	人員面の保証（人数だけではなく、各職員がある程度同じ仕事ができ、仕事を分担できること）があると、もっと研修を受けやすいと思います。			
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4	2	支援プログラムはお子様個別に作成しています。基本的には認知・言語・微細運動・粗大運動を満遍なくプログラムに入れるようにしています。	職員により、プログラムの内容が偏ったり、目標設定にばらつきがあることがあるので、お子様に合わせた職員の個性を発揮しながらも、それぞれが専門性（発達や特性に合わせたステップでの進め方）を高めていけると良いと思います。			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6	0					
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6	0					
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6	0		支援プログラムを作る際に、各職員がお子さんの支援課題や目標、総合的な支援の方針を「都度見る」ことが習慣づくとう良いと思います。			

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
適切な支援の提供	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	0		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	0		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	2	4	個別療育の担当を基本的に毎回変えているので、個々に立案しています。わからないことや困ったことは質問したりアドバイスがあります。部屋の使い方やアシスタントに手伝ってもらうことを共有しています。小集団ができるお子さん達の活動プログラムは、その日の担当者が立案しますが、内容を事前に共有しています。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	0	様々なスタッフができる限り交替で個別療育を担当することで、固定化しないようにしています。プログラム作成の際、前のプログラムに目を通してあります。	パターン化で「できた。」ではなく、理解して「できた。」となるよう、児童発達支援管理者が声をかけていますが、スタッフにより同じ活動が続くことがあります。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6	0	お子さんの発達や特性、療育にいらっしゃる事ができる曜日と時間に合わせて、お子さんの状態と人数がそろえば、小集団を設定しています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	0		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	0	支援終了後に話す時間がある時はできる限り話をします。話ができない時は、できる限り近い日程で朝や空き時間に話をする等しています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	0		
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	0		
	関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5	1	
25		地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	0	まだ連携できていない所もありますが、連携するよう努めています。	
26		併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	1	幼稚園・保育園と保護者様のご依頼がある場合、またこちらから提案をし、保育園や幼稚園を訪問できるよう日程調整をしたり準備をしています。	
27		就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	0	6	保護者様からのご依頼があったり、必要と思われる場合は、検討する意思はあります。	
28		(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
29		質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。					

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
	31 (31は、事業所のみ回答)			保護者様からのご依頼があったり、必要と思われる場合は、連携する意思はあります。	
	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	0	6		
	32 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	0	6	保護者様にご希望の有無の確認が必要だと思います。	
	33 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6	0		
34 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	0	6		今後、検討していけると良いです。	
保護者への説明等	35 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	0	重要事項説明書は、東京都のものより詳細に書いてあり、説明しています。支援プログラムについては、その日行った活動を抜粋して「活動の目的とお子さんの様子」を話すようにしています。ご質問にもお答えしています。	
	36 児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5	1		・保護者の意向になりがちなので、子どもの意思や意向を尊重し、取り入れていく必要があると思います。 ・お子さんの意向が保護者様の意向になりがちなので、言葉が通じるお子さんは、個別支援計画のモニタリングの頃に、「この事業所でこれから何をしたいか?」ときいてみるように意識していきます(本来、ご本人の意向に基づいた計画であるべきなので、例えば「〇〇で遊びたい。」(理由もきいてみる)でも良いと考えます。
	37 「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6	0		
	38 定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6	0	活動のフィードバック、個別支援計画のモニタリング時に主に話を伺っていますが、ご依頼があれば随時受け付けます。	
	39 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	2	4		・保護者会を定期的で開催することで、保護者同士も交流しやすくなると思います。 ・保護者会は、まだ定期的な開催までできていないので、今後検討したいと思います。きょうだい同士の交流は、今は検討していません。
	40 こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6	0		
	41 定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5	1	SNSは随時更新しています。また、東京都からのコロナ感染の注意喚起などは、利用者様全体に周知しています。	保護者へ直接の通信の発行は、今後検討していきます。各種媒体の事業所アピールの場の更新まで手が回っていないように感じます。
	42 個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6	0		
	43 障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6	0	お子さんに合わせて個別に活動プログラムを立てているので、都度、きめ細かい対応をしていると思います。	
	44 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	5		
45 事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	0			
46 業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	0			

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
非常時等の対応	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6	0	ご見学・ご体験時に状況を伺うだけではなく、療育前に検温と共に「変わりがないか。」を常に確認しています。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	1	食事やおやつを提供を止めたため、今、食物アレルギーで個別に気をつけることはないですが、事業所内での飲食やゴミについて、アレルギー事故防止のために保護者にご協力いただいています。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	0		
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4	2		必要があればお伝えするようにしていますが、周知について、未だ検討中の部分があります。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6	0		
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6	0		
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6	0		